

愛知学泉大学と 高大教育連携協定をむすびました

大学と高校のキャリア教育の連携を目的とした高大教育連携協定を平成30年4月19日に愛知学泉大学と結びました。

愛知学泉大学では、以前から稲武地区と協力して様々な活動を行っており、今後はその活動に本校生徒も参加して大学や地域と連携して貴重な体験から学びを深めていきます。

また、その高大教育連携協定の締結が中日新聞と新三河タイムス、矢作新報に掲載されました。

愛知学泉大学・松平高等学校
「高大教育連携協定」調印式



学泉大と松平高 生徒の進路支援で連携

愛知学泉大学と松平高校が19日、高大教育連携協定を締結した。高校生に対する進路選択支援が狙い。

この協定は松平高の竹炭の製作・販売を通じた地域ボランティアに対し、あいちSTEM教育推進事業として、学泉大の教員が講演や指導等の

教育的支援を行ったことが契機となった。STEM教育推進事業とは、科学技術やものづくりに関する知識等の教育を推進する愛知県の人材を育成する愛知県の事業。

今後は、学泉大が系列校で行っている「なるに」は講座を松平高生に対して行うと共に、大学

吉屋

学生衣料のことなら

松平店 豊田市松平1-29 033-1155
 桜高店 豊田市高上1-14 2080-5050
 みなけ店 豊田市井上町6-109 045-4476

その他、今月から稲武地区で両校共同の実習活動が既に行われている。「なるには講座」は1・2年生向けに、大学ではどのような授業を行うかを教えるもの。共に今後の両校の協議で開始時期や内容を決定する。

販売を運動させて中山間地域の抱える問題の解決策を共に探求している。

学泉大の寺部暁学長は、「連携協定を両校の発展に役立てたい」と述べ、松平高の加藤敏実校長は、「生徒だけではなく教員も学ばせてもらいたい」と語った。

【吉田直樹】

矢作新報 4月27日(金)掲載

松平高 学泉大と教育連携 中山間地で共同活動

今年度創立70周年を迎える豊田市鶴ヶ瀬町の松平高校が19日、岡崎市の愛知学泉大学とキャリア教育で協力し合う高大教育連携協定を結んだ。18年度から保育分野で実践教育に力を入れたライフコーディネート科が開設され、岡崎女子大・短大と連携協定を結んでいる。

協定では学泉大が将来の職業選択を考える講座を松平高で開き、両校が共同で地域活動に取り組み。同大現代マネジメント学部学生らがすでに稲武地区で養蚕による生糸作りで地元住民と協力して取り組んでおり、今後は松平高生も参加し中山間地域の課題や解決策

を学ぶ。

調印式が同日であり、寺部暁学長が「少子化が進む全入時代、偏差値で学校を選ぶ時代ではない協定を両校の発展につなげたい」とあいさつ。松平高の加藤敏実校長は「生徒にとって大学生と交流するのは貴重な機会。教員にも刺激。高校生が大学生と一緒に何かをすなことを教えてもらおうなどメリットが期待できる」と期待を寄せた。

【後藤真一】

新三河タイムス 4月26日(木)掲載

松平高、学泉大連携協定 共同で中山間地域活動

岡崎市の愛知学泉大と豊田市の松平高が十九日、キャリア教育などで協力し合う高大教育連携協定を結んだ。同大が県立高と協定を結ぶのは初めて。

協定では学泉大が将来の職業選択を考える講座を松平高で開いたり、両校が共同で地域活動に取り組みたりすると規定。学泉大現代マネジメント学部の学生らが豊田市稲武地区で養蚕による生糸づくりで地元住民と協力して取り組んでおり、今後は松平高の生徒も

参加して、中山間地域の課題や解決策を学ぶ。

調印式が同日、学泉大であり、寺部暁学長が「少子化が進み、偏差値で学校を選ぶ時代ではない。協定が両校の発展につながれば」とあいさつした。松平高の加藤敏実校長は「生徒にとって大学生と交流するのは貴重な機会。教員にも刺激になる」と期待した。

(森田真奈子)

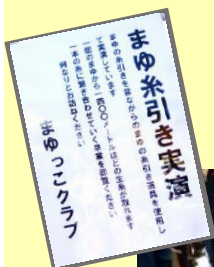
中日新聞 豊田版
4月20日掲載

4月 高大連携活動（まゆっこクラブ）



愛知学泉大学との高大教育連携の一環として、4月21日に稲武地区に養蚕業を学びに行ってきました。

稲武地区の養蚕業を守ために地元では、まゆっこクラブが活動しており、生徒たちは地元の方々から絹糸の製造工程を学びました。



まずは、地元の方のまゆ糸引き実演をじっくり観察。



その後、生徒たちも糸引きに挑戦します。

座繰器を用いて糸を引き出し巻き取る作業をしました。



高大教育連携はライフコーディネート科の活動の一環です。